

2023年4月9日（日） メッセージアウトライン 「毎日がイースター」

聖書箇所：Iコリント15：1～20

タイトル：「毎日がイースター」

はじめに：主の復活を心からお祝い申し上げます。

クリスチャンは先ほどお読みしたIコリント15：1～4に記されている福音の三つの要素を信じて救われています。パウロは「聖書に書かれているとおりに」と繰り返しながら、「キリストは私たちの罪のために死なれたこと、また葬られたこと、三日目によみがえられたこと」これを信じて、パウロ自身もこの福音を信じるすべての人が救われていると断言しています。

パウロもイエス様の十字架の死を見たわけではなく、空っぽになったイエス様の墓も見えていません。しかし、パウロが復活の主に出会ったことは事実です。

（使徒9：1～19）

私たちは福音を信じていますが、どの現場にも居合わせていません。私たちの信仰はすべて神のことばである聖書に土台するものです。

キリストの復活は何を私たちにもたらしたのでしょうか。1. 復活とは何か、2. もし復活がなかったら、3. 復活は証明できるのか、4. クリスチャンの希望と生きる目的、について今日のみことばから考え、そしてあらためて主の復活をお祝い致しましょう。

## 1. 復活とは何か？

◎死んだ人が生き返るといえることですか。

\*それは単なる蘇生。マルタとマリアの兄弟ラザロ、ナインのやもめの息子、会堂管理者ヤイロの娘の例。彼らは生き返っても最後は肉体の死を迎えている。それは元の肉体として生き返っただけ。

\*「死人の復活」というのは？

イエス様は死者の中から復活された初穂（20節）単なる肉体の蘇生ではない。

イエス様の復活は、十字架上でイエス様が成し遂げてくださった贖罪（罪の赦し）の完成。同時に、クリスチャンが将来、復活することの保証。

復活のからだは朽ちない栄光のからだ（Iコリント15：42～54）、御霊のからだとも言われる。主と共に永遠に新天新地で過ごすことのできるからだ。

## 2. 復活がなければ・・・

コリント教会の中ではキリストが復活されたことを否定する人たちがいた。パウロはそれを否定した。

◎パウロがキリストの復活を事実として主張する根拠

- \* 13節 死者の復活がないというのであれば、キリストもよみがえられなかった。
- \* 14節 キリストがよみがえらなかったなら、私たちの宣教も信仰もはむなし。
- \* 15節 復活がなければパウロを含むクリスチャンが偽証人ということになる。
- \* 16節 死者の復活がないというなら、キリストもよみがえらなかったはず
- \* 17節 キリストがよみがえらなかったのなら、信者は今もお罪の中にいる。
- \* 18節 キリストがよみがえらなかったのなら、多くの人がキリストのために殺されていったが、彼らの復活もないことになる
- \* 19節 復活なしに救いはないし、教会もキリスト教も存在しえない。

### 3. キリストの復活を証明できるのか

①キリストご自身が語られた十字架と復活の預言。主はこの二つをセットで語られた  
例 マタイ16：21、ヨハネ2：19～21、その他福音書のあちこちで

②復活のイエスにお会いした人々の証言

- \* Iコリント15：5～8では、  
・ケファ（ペテロ）に  
・五百人以上の兄弟たちに（その中ですでに死んだ人もいるが、生きていて話を聞けば証言してくれる人もいる）  
・ヤコブ（イエス様の弟、エルサレム教会の長老）に  
・すべての使徒たちに  
・パウロに（使徒9：1～19）

### 4. 空になった墓

マタイ27：62～66、28：11～15 イエスの弟子たちが遺体を盗んだというデマの流布。いみじくもピラトたちが墓が空っぽだった事実を認めていることである。

### 5. 変えられた弟子たち（臆病者から大胆に福音を宣べ伝える者に）

### 6. 今を生きるクリスチャンの証言（見ずに信じる者であり、みことばに従って変えられていく経験）

### 7. 結論

①キリストの復活が信者にもたらした希望

\*パウロはIコリント15：42～44の中で、復活のからだはどのようなものかを説明している。

血肉のからだではなく、朽ちない栄光のからだをいただく者へ

②復活の希望を持つ者が生きる目的（Iコリント15：58）

「堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。」

\*毎日がイースターの日々を生きる